



〔贈る言葉〕

～知ることは好むことに如かず 好むことは楽しむことに如かず～

日本もようやく”こどもまんなか”におく子ども政策の司令塔「こども家庭庁」が4月1日に発足されます。

深刻化する少子化や児童虐待、貧困といった課題に横断的に対応し、  
子ども主体の政策実現を目指すのだそうです。

具体的には生涯にわたる人格形成の基礎となる乳幼児期の子どもの育ちの特徴を示し、  
子どもを取りまく全ての人たちで共有したい理念として提起していました。

私はその中で次のような基本的欲求を大切にしたいと思いました。

- 1. 安心したい
- 2. 満たされたい
- 3. 関わってみたい
- 4. 遊びたい
- 5. 学びたい
- 6. 認められたい

改めて私は50有余年に渡る臨床保育の実践をふり返ってみた時、  
「人間学と人間科学に基づいた人間教育」に取り組むべきだと思いました。

「子どもまんなかの社会」とは子どもたち一人ひとりが人・もの・こと(環境・社会)との関わりを持ち、  
新生児からの欲求(表情・仕草・ほほ笑み)の充足・行動、やりとり、受けこたえなどから信頼性を高め、  
心(意識)、身体、言語・非言語、脳などの働きを活性化させ応答関係(Serve&return)をくり返しなが  
自分の存在認識を高め、自敬自尊心を育み、全ての人当事者となり  
一貫した考え方の下で子どもの育ちを保障してして行くことであると思っています。

私たちの人との関わりから始まる学びは、欲求から始まるServe&returnであり、前に述べたように  
欲求・心・身体・脳への働きは”人が動く”をすることで五感の刺激と意識の働きを高めるのであります。



笑ったかす 一番 だっこされたかす 一番 やさしくされたかす 一番  
遊んだかす 一番 でかけたかす 一番 チャレンジしたかす 一番

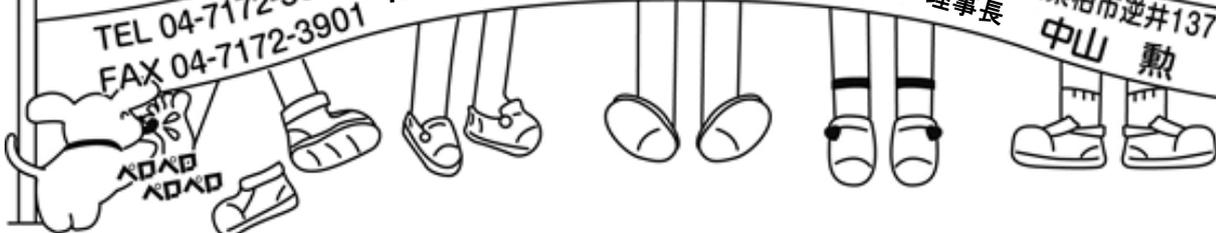


E-mail [doushinkai@doushinkai.jp](mailto:doushinkai@doushinkai.jp) URL <http://doushinkai.jp>

TEL 04-7172-3939  
FAX 04-7172-3901

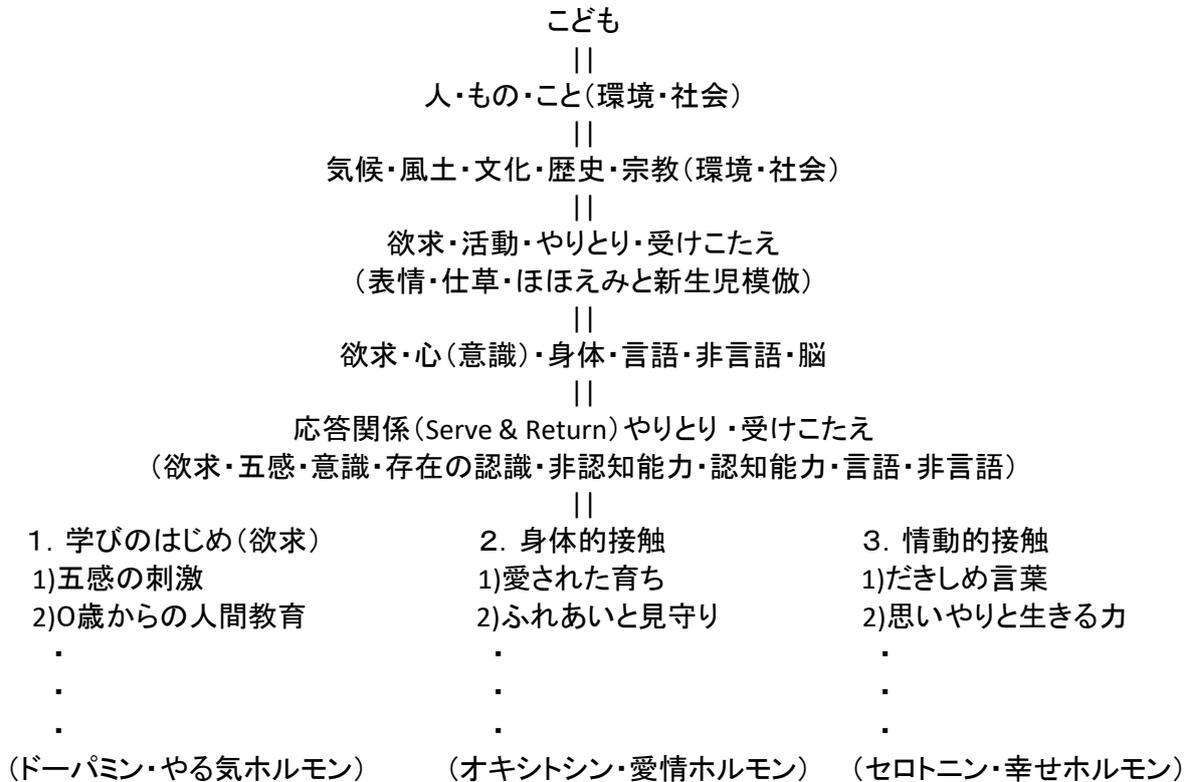
社会福祉法人 童心会

〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地1  
理事長 中山 勲



そして気候・風土・文化・歴史・宗教などの総合的な日本の生活環境を通して生涯学習・生涯教育が始まっていることを子どもの養育者として関わりのある全ての人たちに伝えていかなければならないのです。

### [人の成り立ちから 子ども期を考える]



今、自らの学びをふり返ってみると、人間学の訓えの中に「自利・利他」という言葉がありました。すべては「自分を創る」ことであり、自分を高めることは「人を創る」ための援けになるのです。法人だより3月号[贈る言葉]のサブタイトルにある言葉は「四書五経・論語」の中の言葉です。

私流に解釈をすると次のようになります。

「これを知ることによってどんなに苦勞をしても、好きで学んできた者には敵いません。さらに長い時間で見つめてみると、好きで学んできた者でも楽しんで学んできた者には敵いません」と言っているのです。

私たちと皆さんは今日まで目に見えない「偉大なる人」の導きでこの(社福)童心会で出会いました。また私たちは皆さんと一緒に脳科学・神経科学の科学的エビデンスが実証する前から「五感を刺激する0歳からの人間教育」を日本で最初に取り組んできたのです。そして今では「五感と意識が働く0歳からの人間教育」と視座を広げました。改めて「乳児(Early Childhood)は偉大な学習者である」ことを実感しながら感動をくり返しています。

今日私は卒園生の皆さまに「贈る言葉」に代えて『あなたたちは この(社福)童心会で「人間学と人間科学に基づいた人間教育」を受けた数少ない人たちである』と胸を張って言いたいと思っていました。

ご卒園おめでとうございます。

保護者の皆さまをはじめ、関係各位の皆様には心からの“ありがとう”を述べさせていただきます。(社福)童心会からの旅立ちを心からお祝い申し上げます。

令和5年3月 吉日  
社会福祉法人 童心会  
理事長 中山 勲

※ 童心会だよりはホームページ上でご覧になれます。